小墾田之、板田乃橋之、壞者從桁將去、莫戀吾妹、

〔萬葉集略解十一下〕をはり田は、推古天皇十一年十月、豐浦宮より小墾田宮へ遷させる事紀に見ゆ、神名帳大和高市郡治田神社と有、板は坂の誤にてさかたなり、さかたとせる事は、小墾田の金剛寺を坂田尼寺といへり、推古天皇鞍作鳥に近江坂田郡水田を賜ける時、鳥天皇の御爲に此寺を建たれば、坂田寺といふなるべし、南淵山細川山より水落合て、坂田寺のかたへも流るといへば、そこに渡せる橋をいふならんよし契沖いへり、舒明天皇二年十月に、飛鳥岡本宮へ遷ませしより、小はり田は故郷と成て、そこの橋の板の朽たる程の歌なるべし、こゝを後世誤りて、をはたゝのいたゝとよめる歌有、

○按ズルニ、板田ト稱スルモノ、此他尚ホ攝津國、尾張國等ニモアリ、

〔堀川院御時百首和歌雜〕橋　俊頼

朝夕につたふ板田の橋なればけたさへ朽てたじろきにけり

〔續後拾遺和歌集十五雜〕五月雨　加茂基久

五月雨にいたゞの橋も水こえてけたよりゆかむ道だにもなし

〔宗祇法師集春〕橋邊款冬

駒とむるいたゞのはしの夕浪にこぼれてにほふやまぶきのはな

〔夫木和歌抄二十一橋〕くめのいはばし　大和

〔增補下學集上天地〕久米路橋大和

〔袖中抄六〕くめぢのはし、〇中略

又かつらぎのはしともよめり、又くめぢのはしともいふ、又かつらぎやくめぢにわたすいはゞしともよめり、又かつらぎやわれやくめぢの橋つくりともよめり、又かつらぎやくめぢのはし

久米岩橋